

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170100475		
法人名	株式会社 森永商店		
事業所名	グループホーム 月華堂		
所在地	佐賀市北川副町新郷781番地 (電話) 0952-29-8718		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 21年3月30日	評価確定日	平成 21年5月8日

【情報提供票より】(平成21年3月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 6月 14日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算 5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,500 円

(4) 利用者の概要(平成21年3月15日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	4名	要介護2	3名			
要介護3	2名	要介護4	名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	86歳	最低	72歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	本庄診療所 志田病院 正島脳神経外科 高森歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

佐賀市北川副町の市街地から少し南で、地域の家並みに溶け込んだ、丹塗りの木造で落ち着いたたたずまいのグループホームである。自然の木をふんだんに使って立てられたホームは、木の香りがする。ホームの中は昔の調度品を配置し、静かにゆっくりと時間が流れ、一人ひとりにあった介護計画のもとで、支援が行われている。職員と入所者は、共に時間を共有する生活者であるとの視点は、職員一人ひとりに浸透しており、生活を共にする家庭的な雰囲気作りが図られている。また、ホームの代表者は地域の自治会長であり、ホーム長が民生委員であるなど、地域との連携や結びつきが充分図られているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価での改善項目は無かったが、入居者へのサービスの質の向上を目指し、入居者一人ひとりに合った日常生活の中の役割を持って生活できるよう、さらに改善に取り組まれている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護スタッフと話し合いながら自己評価に取り組み、職員一人ひとりが、外部評価、自己評価項目の意義を理解できるよう会議等で話し合いがもたれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ホームの様子や入居者の状況等が報告され、地域行事の情報交換がなされるなど、入居者が地域との関わりを保てるよう取り組まれている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームの苦情受付窓口の提示、意見箱の設置、ホーム以外の苦情相談窓口等も説明がなされている。また、面会時などに話を伺い、家族からの意見や要望については、すぐに対応し、必要に応じ全ての家族に対して改善報告がなされている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>代表者は地域の自治会長で、ホーム長が民生委員で、以前から地域で生活しておられ、昔から地域との付き合いがあったため、地域住民のグループホームに対する理解はなされている。「ふれあいサロン」を開催するなど、地域の福祉拠点として地域との連携は充分に図られている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	行事を通じて、地域とのかかわりをも持つ。また、昔からの雰囲気そのままに、自分の家と思ってもらうことを目的に、安心、安らぎ、潤いが保たれたホームを目指すよう、独自の理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の職員会議の中で、理念に沿ったサービス提供になっているかの確認が行われている。また、入居者と地域住民との交流を通して、理念の普及に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームではクリスマス会、音楽会を開催し地域の人たちを招いている。また、「ふれあいサロン」を開催したり、地域行事、地域の清掃活動へ出向くなど地域との交流に努められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	介護スタッフと話し合いながら自己評価に取り組み、職員一人ひとりが、外部評価、自己評価項目の意義を理解できるよう会議等で話し合いがもたれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの様子や入居者の状況等が報告され、地域行事の情報交換がなされるなど、入居者が地域との関わりを保てるように取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	「ふれあいサロン」の定期的な開催や、他の市町民生委員会からのホームへの訪問などが行われている。また、地域包括支援センターとは、サービスについての相談や提案などをして、市と共にサービスの向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームや入居者の生活の様子、金銭出納の状況は毎月文書にて報告されている。また、家族の訪問の際や、随時の電話での報告など、家族の必要な情報は報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの苦情受付窓口の提示、意見箱の設置、ホーム以外の苦情相談窓口等も説明がなされている。また、面会時などに話を伺い、家族からの意見や要望については、すぐに対応し、必要に応じ全ての家族に対して改善報告がなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の事情に合わせた勤務形態や、昼休みの時間を十分に設けるなど働きやすい環境の整備に心がけ、離職を抑えるよう取り組まれている。また、やむなく退職される時は新規職員との重複出勤により、入居者への負担を軽減するよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての職員が、外部での研修に参加できるように配慮されている。また、さまざまな資料をもとに、ホーム内での研修の機会を設け、資質向上に取り組み、資格取得への働きかけがなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修会に参加し、交流をしている。また、運営者同士は情報交換があるが、職員レベルでの交流までには至っていない。	○	近隣の同業者同士、運営者、ケアマネジャー、介護職員等、それぞれの交流を通して、ホームのサービスの質の向上に取り組まれることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居間もない時は本人のペースで、自由に生活してもらい、本人理解を深めている。そして、このホームが自分にとって過ごしやすい所だと思ってもらえるよう取り組まれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜づくりや漬物作り、ピアノが得意な方にはピアノを弾いてもらいみんなで歌を歌うなど、一緒に取り組み過ごされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者とのコミュニケーションを重視し、日頃の会話の中から本人の希望や考えを聞き取るように努めている。また、本人の様子から汲み取れる思いや意向は、職員間で話し合い、共有するよう努められている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者一人にひとつずつ目標を立て、ケアプランの基本にしている。家族の意見を聞き、職員の情報を出し合いながら、話し合い作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は短期3ヶ月ごとにモニタリング、長期6ヶ月で評価し、定期的に見直しが行われている。また、本人の状態が変わった時は、家族や関係機関と連携を取り、話し合いの中から現状に即した計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	小規模な施設の利点を活かして、日程や行事、外出や外泊、食事の内容まで、一人ひとりの要望に個別に対応できる体制がとられている。また、家族の状況に応じて通院の支援等も行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に沿って主治医やかかりつけの医への受診を支援している。グループホームが近郊の医療機関と良好なネットワークを持っており、それを活かした支援体制がとられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を最優先し、重度化した場合の対応や終末期に向けた方針について、家族や本人の思いの確認を取りながら、医療機関、スタッフと十分な話し合いを行い、全員で方針の共有がなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳を損ねない声かけや対応が徹底されている。羞恥心への配慮やプライバシーの保護については、同性による介護等、本人の思いを受け止め、職員は守秘義務に関する誓約書を作成されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや機能訓練、外出など、入居者一人ひとりの状況や、その日の体調、希望に応じて一日の生活を支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力にあわせ、食事の準備から片付けまでを職員と共に行っている。食事はコミュニケーションの場として、会話を楽しみながら、入居者と職員と一緒に摂られている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	檜の浴槽を用い、入居者には喜ばれている。週3回の入浴日を設けているが、それ以外の曜日や時間帯の希望があればいつでも入浴に対応されている。また、入浴を拒否される方には、声かけの工夫をするなど、スムーズに入浴をしてもらうように支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は共に生活するものとして、生活歴を活かし、出来ることを見つけ、役割を持ちながら生活されている。また、畑仕事や草取り、散歩、手芸など一人ひとりの好みや能力に合わせて、やりたいことを楽めるよう支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームのテラスへ出たり、畑へ出たり、近所の神社等への散歩など、職員の付き添いで自由にホームの外での時間を楽しまれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	通常、日中は玄関、ベランダ、勝手口などの施錠はなされていないが、現在、予測できない行動に対応する方法を検討中で、玄関は施錠されている。このことについては、全ての入居者の家族に説明し、了承を得られている。	○	施錠の方法以外の対応方法を検討し、開放的な生活を提供されることが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回程度の避難訓練が入居者と共に実施され、地域の消防団や近所の方の協力体制も築かれている。また、入居者の高齢化に伴い、さらに適正なマニュアルの作成に取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは、栄養士が対応している。食事の摂取量を把握し、利用者の状態に応じて刻んだりトロミをつける等、食べやすいように配慮している。水分の摂取については、毎食、10時、15時のお茶、入浴後や外出後など、十分確保できるよう配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高齢者が馴染みの深い日本建築を意識した木造建築であり、調度品などは、昔の落ち着ける物を用いて、居心地の良さに配慮されている。明るさや、テレビの音量など入居者の様子を観察しながら適宜調整されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやテレビ、仏壇など、入居者が使い慣れた馴染みの物が自由に持ち込まれており、居心地よく過ごせるように工夫されている。		